

春の息吹が確かに感じられる今日の佳き日、第71回愛媛県立松山東高等学校通信制課程卒業証書授与式、並びに第58回NHK学園高等学校卒業証書授与式を挙行できますことは、我々教職員一同、この上ない喜びであり、御臨席を賜りました御来賓の皆様をはじめ、保護者の皆様方に、厚くお礼を申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました卒業生の皆さん、御卒業、おめでとうございます。皆さんは、松山東高校通信制での学び、そして、本校でのかけがえのない出会いと経験を通して、自分をしっかり理解し、そして、他の人たちとつながる確かなものを見つけられました。そして、その確かなものを胸に、これから新しい世界に羽ばたいていかれることを、うれしく思っています。

通教の歌の1番は、「遠くはなれて学んでも 心はかたく結ばれる 明るく行こうよ わが友よ ひとりじゃないんだ がんばろう」という歌詞で締めくくられています。作詞された大原和寿さんの文章によると、昭和37年、大原さんの娘さんがお生まれになったときに、その病院の廊下で、東高通信制生徒募集のポスターを目にして、大原さんは、「今日生まれた新しい命のために、胸を張って言えることをやってやろう。」と決意され、本校の通教生になりました。33歳のことでした。通信制での勉強は、仕事との両立で苦闘の連続、友達を作るいとまもなかった、と振り返っておられます。そのような高校生活の中、当時、募集のあった「通信制の歌」に応募され、「ひとりじゃないんだ がんばろう」の歌詞が見事に採用されたのです。

皆さんは、決して一人ではありません。そして、それは、皆さんも、実感していることと思います。皆さんを支えてくれる人がいて、そして、皆さんも誰かの支えになっているのです。また、家族の皆さん、お世話になった先生方、そして友垣との交流により、皆さんは、豊かな人間性を身に付けてくれました。身の回りにいる人やお互いを慮る人間としての心、それが、皆さんを支える糧となり、先の見えない将来を照らしてくれるのです。

「運命は 笑ひ待ちをり 卒業す」この俳句は、松山出身の高浜虚子の俳句です。「運命は 笑ひ待ちをり 卒業す」皆さんが歩いていく道は、困難もあるかもしれませんが、豊かな人間性を身に付けた皆さんには、この俳句が示してくれているように、明るい未来が待っている、そう信じています。

保護者の皆様、これまで、様々な御苦勞や御心配があったことと存じますが、本日、お子様はこのように頼もしく成長され、晴れの御卒業となりました。おめでとうございます。皆様の支えに感謝と敬意を述べさせていただきます。

卒業生の皆さん。私は、皆さんと同じときを、松山東高校で過ごせたことを、本当にうれしく思っています。卒業おめでとう。皆さんは、私たち教職員にとって、また、地域や社会にとって、かけがえのない存在です。

いよいよ旅立ちのときが来ました。皆さんの今後の成長と健康、御活躍を心からお祈りし、式辞といたします。

令和6年3月3日

愛媛県立松山東高等学校長 沖田浩史